

## Peoplecert.DevOps-SRE.v2026-08-23.q44

|                                                                                                                                                                       |                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 試験コード:                                                                                                                                                                | DevOps-SRE                                        |
| 試験名称:                                                                                                                                                                 | PeopleCert DevOps Site Reliability Engineer (SRE) |
| 認定資格:                                                                                                                                                                 | Peoplecert                                        |
| 無料問題数:                                                                                                                                                                | 44                                                |
| バージョン:                                                                                                                                                                | v2026-08-23                                       |
| アクセス数:                                                                                                                                                                | 105                                               |
| ページビュー数:                                                                                                                                                              | 440                                               |
| <a href="https://www.jpnpdf.com/Peoplecert.DevOps-SRE.v2026-08-23.q44-mondaishu.html">https://www.jpnpdf.com/Peoplecert.DevOps-SRE.v2026-08-23.q44-mondaishu.html</a> |                                                   |

### 最新問題: 1

ある銀行は、システムの可用性と計画通りの運用を確保するために、従来型の監視ツールを使用してきた。しかし、現在では顧客体験への新たな注力と、サービスの規模拡大の方法の特定を戦略的取り組みに取り入れている。

なぜ今、可観測性アプローチへの移行が重要なのでしょうか？

- A. コンテナワークロードや動的なアーキテクチャの管理に適しています
- B. コンポーネントレベルでのモニタリングでは、もはや適切なデータが得られない可能性があります。
- C. すべての潜在的な問題を予測することは不可能です
- D. 上記のすべて

**Answer: D (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

挙げられた理由はすべて、現代のユーザー中心で動的にスケーリングするアーキテクチャにおいて、可観測性が不可欠となる理由を正しく説明しています。

SREワークブックとGoogleオブザーバビリティガイダンスはどちらも、以下のような環境では従来のモニタリングでは不十分であることを強調しています。

- \* サービスは分散されています
- \* 交通状況は予測不可能です

顧客体験を最優先事項とする

クラウドネイティブ、コンテナ化、またはマイクロサービスアーキテクチャが使用されています。

主な抜粋：

Googleのオブザーバビリティに関するガイダンスより：

「モニタリングは既知の障害モードに依存しますが、可観測性によってチームは未知の未知の要素を探求し、複雑で動的なシステムを理解することができます。」 \$SREワークブックより)

システムが大規模化し、アーキテクチャがマイクロサービスやコンテナへと移行するにつれて、コンポーネントレベルの監視では全体像を把握できなくなります。可観測性によって、チームはユーザーへの影響とシステム動作を包括的に理解できるようになります。」したがって、次のようになります。

コンテナ化された環境や動的な環境においては、可観測性が非常に重要です。

\* B コンポーネントの監視だけでは、顧客体験やエンドツーエンドの信頼性を示すことはできません。

\* C 可観測性は、チームが事前に予測できなかった問題（未知の未知）を診断するのに役立ちます。

すべての記述が正しいので、Dが正解です。

参考文献：

SREワークブック ⑤「モニタリングと可観測性」

Google Cloudアーキテクチャフレームワーク：可観測性とモニタリング」

サイト信頼性エンジニアリング書籍、アラートと監視の章

#### 最新問題: 2

以下のうち、フルサービスオーナーシップを採用しているSREチームの最良の例はどれですか？

- A. チームはアプリケーションの開発とパフォーマンスに責任を負います。
- B. チームは、コーディング、出荷、およびアプリケーションの改善に責任を負います
- C. このチームは、私のアプリケーションの冷却と改善を担当しています。
- D. このチームは、アプリケーションのパフォーマンスと信頼性に関する責任を負います。

**Answer: B** ([メッセージを残す](#))

#### 最新問題: 3

従業員が「全体」よりも「部分」を優先する場合、次のうちどれが最も起こりやすい結果でしょうか？

- A. 従業員のモチベーションと士気の向上
- B. 内向性の増加と効率性の低下
- C. 資源と情報の自主的な共有
- D. 共通の利益に焦点を当て、対立を減らす

**Answer: (**[解答を表示する](#)**)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREは組織的な連携と協働を重視し、縦割り思考を戒めています。SREブックでは、「システム全体を犠牲にした局所的な最適化は、非効率性、連携不足、信頼性の低下につながる」と強調しています。個人やチームが共通の目標（全体）ではなく、自分たちの「部分」だけに焦点を当てると、チーム間のコミュニケーションの低下、孤立、運用上の摩擦、効率の低下を招きます。

オプションBは、SREで文書化されたこの結果、すなわち内向性の増加（サイロ化）と効率性の低下を捉えています。

選択肢AとDは、SREのコラボレーション原則に反する肯定的な結果を描写している。

選択肢Cは健全な情報共有を意味しており、それは組織を孤立させる行動からは生まれない。

したがって、Bが正解である。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング、章：組織と文化」

サイト信頼性ワークブック、コラボレーション、連携、およびサイロ化防止文化に関するセクション。

#### 最新問題: 4

停電が繰り返し発生し、かつ類似した状況になると、それは一種の料金徴収行為となる。高度な技術と人工知能（AI）を採用する最も説得力のある理由を説明しているのは、次のうちどれですか？

- A. 平均修復時間（MTTR）を向上させる
- B. サービス復旧のための平均調整時間（MTRS）を増加させる
- C. MTTRとMTRSを短縮することで信頼性を向上させる
- D. 信頼性を向上させ、完璧なMTRSを実現する

**Answer:** ([解答を表示する](#))

#### 最新問題: 5

サービスレベルに適用した場合、限界生産性逓減の原理は3つの段階で表すことができます。次のうち、これらの段階に含まれないものはどれですか？

- A. マイナスリターン
- B. 収穫逓増
- C. 収穫逓減の法則
- D. リターンの可能性

**Answer:** D ([メッセージを残す](#))

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREは、限界収益逓減の法則を含む経済原理を信頼性工学に適用します。SREの書籍には、  
「信頼性の向上は、目標が100%に近づくにつれてコストが増大し、収益逓増から収益逓減、そして最終的には収益減へと移行する」と記載されています（SRE書籍 - SLO Economics）。

このフレームワークは、100%の可用性を目指すことが非現実的で費用対効果が低い理由を説明するのに役立ちます。

認識されている3つの段階は以下のとおりです。

- \* 収益増加 - 初期段階の改善は費用がかからず、非常に効果的です
- \* 収穫逓減の法則 - 費用が増加する一方で、便益は減少する

\* マイナスリターン - さらに「サイン」を達成しても、イノベーションの減速により価値が低下する可能性がある

「想定される収益」はこのモデルには含まれていません。

したがって、Dが正解です。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング、章：「サービスレベル目標」

#### 最新問題: 6

従業員が「書く前に部品を優先する」場合、次のうちどれが最も起こりやすい結果でしょうか？

- A. 従業員のモチベーションと士気の向上
- B. 内向性の増加と効率性の低下
- C. 資源と情報の自発的な共有
- D. 共通の利益に焦点を当て、対立を減らす

**Answer: B ([メッセージを残す](#))**

#### 最新問題: 7

マイクロサービスは、開発、デプロイ、保守が別々に行われる独立したサービスです。次のうち、このアプリケーションアーキテクチャの使用を最も適切に正当化するものはどれですか？

- A. コンセプト実証として、基本的な製品を迅速に構築する
- B. シンプルで軽量なビジネスアプリケーションの作成
- C. コアシステムのユーザーインターフェースの近代化
- D. レガシーアプリケーションの近代化とリファクタリング

**Answer: B ([メッセージを残す](#))**

#### 最新問題: 8

脆弱性対策としてのカオスエンジニアリングは、サービス復旧までの平均時間をどのように改善するのでしょうか？

- A. 弱点や依存関係を特定し、より高い回復力が必要となる可能性のある領域を明確にするのに役立ちます。
- B. 監視ツールを最適化することで、実際のインシデントを検出できる可能性が高まります。
- C. 自動復旧のための自動化機能を作成します
- D. データベース障害発生時にデータをキャッシュすることで、SLOが満たされる可能性がある。

**Answer: ([解答を表示する](#))**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

カオスエンジニアリングは、SRE（サイト信頼性エンジニアリング）の手法の一つであり、システムを意図的に制御された障害シナリオにさらすことで、システムがどのように反応

するかをチームが観察するものです。この手法は、システムが障害にさらされることで強化される、つまり反脆弱性を支えるものです。

SREワークブックの「過負荷への対処」の章とカオスエンジニアリングのセクションでは、以下の点が説明されています。

制御された環境に障害を注入することで、ストレス下でのみ現れる隠れた依存関係、弱点、およびシステムリスクが明らかになる。」サイト信頼性エンジニアリングの書籍もこの概念を強調している。

部分的な障害発生時にシステムがどのように動作するかを理解することで、チームは実際のインシデント発生時の復旧時間を短縮するための的を絞った改善策を実施できます。」平均復旧時間 (MTTR) の改善は、以下の理由により実現します。

弱点やボトルネックを早期に特定する

\* エンジニアは故障モードについて理解を深める

実際のシステム障害に備え、事前にシステムの強化を行う。

連鎖的な障害を引き起こす依存関係が明らかになる

他の選択肢が間違っている理由：

\* B 監視最適化は役立つが、カオスエンジニアリングの中核的なメカニズムではない。

\* C カオスエンジニアリングは自動復旧の自動化を生み出すのではなく、それがどこに必要かを明らかにする。

\* D キャッシングは、アーキテクチャ上の回復力戦略であり、カオスエンジニアリング自体の結果ではありません。

したがって、Aが正解です。

参考文献：

SREワークブック「カオスエンジニアリング」

サイト信頼性エンジニアリング書籍「クリティカルステートの管理」

## 最新問題: 9

可用性の向上に貢献する方法として、次のうちどれが最も適切ですか？

\* 重要な側面を測定する

開発チームとの緊密な関係を維持する

\* スタッフの業績を測定する

検出と修正の間隔を短く保つ

A. 1と2

B. 2と3

C. 3と4

D. 1と4

**Answer:** ([解答を表示する](#))

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREの実践において高可用性を実現するには、重要な要素を正確に測定し、問題を迅速に検出して修正することが不可欠です。GoogleのSite Reliability Engineering Bookによると、

重要なユーザー向けシグナルの測定は基礎となるものであり、SLIはユーザーにとって最も重要なサービスの側面を捉え、高い精度で測定する必要がある」とされています \$SRE Book - 章 :サービスレベル目標)。

サービスの重要な側面 (遅延 エラー、可用性、品質など)を測定しなければ、チームは情報に基づいた意思決定を行うことも、サービスの劣化を効果的に検出することもできません。

SREの書籍では、MTTR (平均修復時間の短縮と、検出から修正までのフィードバックループの強化も強調されています。Googleは、検出から対策までの時間を短縮することは、可用性を向上させる最も効果的な手段の一つです」と述べています \$SRE書籍 - インシデント対応と監視に関する章)。迅速な特定と解決は、システムの可用性と回復力を直接的に向上させます。

選択肢D (1と4)のみが、SREの原則を正しく反映しています。

\* 重要な側面を測定する # 正しいSLO/SLIアライメントに不可欠

\* 検出と修正の間隔を短く保つことで可用性が向上します。スタッフのパフォーマンス測定や一般的な開発関係などのオプションは、SRE の文献では可用性を向上させる要因として言及されていません。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング :Google が本番システムをどのように運用しているか、章：「サービスレベル目標」

分散システムの監視」および「インシデント対応」。

#### 最新問題: 10

SREのエンジニアリング面を最もよく表しているのは次のうちどれですか？

- A. ネットワーク設計を適用し、ベストプラクティスを展開して、運用パフォーマンス目標の達成を目指す
- B. インフラ工学の原則を適用して、運用サービスの安定的な提供を構築・維持する
- C. 安定した運用と高い信頼性を実現するために、ネットワークとインフラ開発のベストプラクティスを適用する。
- D. ソフトウェア開発のベストプラクティスを運用上の問題解決とソリューションの自動化に適用する

**Answer: D (メッセージを残す)**

#### 最新問題: 11

インシデント管理において用いられる群集行動の概念を最もよく表しているシナリオはどれですか？

- A. 専門家チームが集まり、エスカレーションされたインシデントのキューをレビューして、どのインシデントに誰が取り組むべきかを決定する。
- B. 中級サポートチームは、担当チームにエスカレーションされたインシデントを継続的に監視し、進捗状況を確認します。

C. インシデントアナリストは、次のレベルのサポートチームとその専門分野の統合リストを評価することで、ルーチンをエスカレーションします。

D. 高度な専門サポートチームが、受信したインシデントキューを常に確認し、エスカレーションに即座に対応します。

**Answer:** ([解答を表示する](#))

#### 最新問題: 12

データ駆動型測定の価値を最も正確に説明できるのは、次のうちどれでしょうか？

A. データの分析と理解は、事実に基づいた意思決定を確実にするのに役立ちます。

B. データの収集は、より良い意思決定を可能にするために必要なすべての事実を提供する。

C. データマイニングにより、組織はすべての指標の正当性を判断できます。

D. 目標は、実際のデータに基づいてのみ適切に設計できる。

**Answer:** A ([メッセージを残す](#))

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREは、直感ではなく、測定されたデータに基づいた意思決定を重視します。SREブックでは、次のように説明しています。

「モニタリングとSLOは、推測に頼るのではなく定量化可能なデータに基づいて意思決定を行うための客観的な基盤を提供する。」(SREブック - SLOとモニタリング)。データによって、SREチームはシステム動作を理解し、前提条件を検証し、異常を検出し、エンジニアリング作業の優先順位付けを行うことができます。主なメリットは、単にデータを収集することではなく、データを分析・解釈して、意見ではなく事実に基づいた意思決定を支援することです。

オプションAはこの原則を正確に反映しています。データ分析と解釈によって事実に基づいた意思決定が可能になり、それがSREがSLIと可観測性シグナルに依存する根本的な理由です。

選択肢Bは、データだけで常に十分であると主張する点で誇張している。

選択肢Cはデータマイニングに関するものであり、SREの中核的な概念ではありません。

選択肢Dは部分的に正しいが、データ駆動型運用というSREの理念よりも範囲が狭い。

したがって、Aが最も正確なSRE準拠の解答である。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング :Googleが本番システムをどのように運用しているか、章：分散システムの監視」、サービスレベル目標」。サイト信頼性ワークブック、セクション：データを使用して信頼性作業を推進する」。

#### 最新問題: 13

カイゼンとは、小さな改善を積み重ねることで継続的に改善していくことを意味する日本語です。

以下のうち、カイゼン思考を最もよく表しているのはどれですか？

- A. パフォーマンス向上のために問題解決技術を学び、応用することへの熱意
- B. 問題を探し出し、その根本原因を見つけ出し、そこから得られた教訓を記録したいという願望
- C. 問題を認識し、優先順位をつけ、解決策を見つけ、学んだ教訓を共有する意欲
- D. 実験を通して最善の問題解決策を見出すことで、改善に情熱を注ぐ

**Answer: C (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

カイゼンは日本のリーン文化に由来するものの、その考え方はSREの継続的改善の哲学と強く一致しています。SRE Bookでは、チームが問題を特定し、優先順位を付け、修正し、知識を共有する文化を強調し、段階的な改善と失敗からの学習が回復力のあるシステムにつながり、チームはプロセスとテクノロジーを継続的に改善しなければならない」と述べています。\$SRE Book - 章：

「事後検証文化」、**「労力の排除」**、オプションCは、問題の認識、優先順位付け、解決策、知識共有といったカイゼンの主要要素をすべて網羅しており、SREの非難を伴わない事後検証と反復的な改善手法を反映しています。

選択肢Aは学習を重視しているが、問題解決への主体性が欠けている。

選択肢Bは、根本原因分析に焦点を絞りすぎている。

選択肢Dは実験を重視しているが、優先順位付けと教訓の共有が欠けている。

したがって、C言語はSREフレームワークにおけるカイゼン思考に最も適していると言える。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング、章：事後検証文化：失敗から学ぶ」。サイト信頼性ワークブック、継続的改善のテーマ。

#### 最新問題: 14

可用性100%のSLOを求めない最も重要な理由を最もよく表しているのは、次のうちどれですか？

- A. サービスの複雑さと規模を考えると現実的ではありません。
- B. そのような目標が設定された場合、結果は失敗となる可能性が高い。
- C. ユーザー満足度スコアは2パーセントの影響を受けます
- D. 目標が高すぎると改善の余地がなくなってしまう。

**Answer: A (メッセージを残す)**

#### 最新問題: 15

サービスレベル指標 (\$LI)の重要な特徴の一つは何ですか？

- A. サービスレベル契約 (\$LA)に明記する必要があります
- B. サーバー側の指標に重点を置くべきである
- C. 時間軸がなければならない
- D. SREチームとアジャイルチームの合意が必要です

**Answer: C ([メッセージを残す](#))**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

サービスレベル指標 (SLI) とは、信頼性の何らかの側面（例えば、遅延、可用性、品質など）を測定する指標です。その特徴の一つは、特定の期間にわたって測定する必要があることです。測定期間が設定されていない場合、SLIは実用的な意味を持ちません。

サイト信頼性エンジニアリングの書籍、「サービスレベル指標」の章より：

SLIとは、提供されるサービスレベルの何らかの側面を定量的に測定したものです。SLIは、ユーザーが体感する信頼性を理解するために、特定の期間にわたって評価されます。」SREワークブックにはさらに次のように記載されています。

すべてのSLIは測定期間を定義する必要があります。時間軸がなければ、指標を使用してSLO準拠を計算することはできません。」他の選択肢が間違っている理由：

\* SLIはSLAに記載する必要はありません。SLAは外部契約であり、SLO/SLIは内部エンジニアリングツールです。

\* B SLIには、ユーザーエクスペリエンスを反映する指標に応じて、クライアント側、サーバー側、またはネットワークのメトリクスが含まれる場合があります。

\* D SLI契約は、SREチームとアジャイルチームによって定義されるものではなく、ビジネスとユーザーのニーズによって定義されます。

したがって、正解はCです。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング書籍、「サービスレベル指標」

SREワークブック SLIとSLOの定義」

**最新問題: 16**

ある組織は、ITILとITSMのプロセスに多額の投資を行ってきた。

SREがITSM活動を支援する方法の一つは何ですか？

**A.** SREはエラーバジェットを遵守することで、変更諮問委員会 (CAB) による変更承認を支援できます。

**B.** SREは自動化とエンジニアリングを通じてITSMコンプライアンス活動を支援できます。

**C.** SREはITSMツールベンダーと連携して、チケットの作成とクローズを迅速化できます。

**D.** SREは、資産とドキュメントを収集するための構成管理システムを設計できます。

**Answer: ([解答を表示する](#))**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREの強みの一つは、ソフトウェアエンジニアリングと自動化を活用して、手作業が多く、プロセスに負担のかかる作業を削減することにある。

これは、再現性、コンプライアンス、品質に関するITSMの目標と完全に一致しています。

SREワークブックの「SREとITILの統合」のセクションでは、次のように説明されています。

SREは、自動化とエンジニアリングの手法を適用することで、手作業によるプロセス負荷を軽減し、一貫性を高め、コンプライアンス要件を満たすことにより、ITSMを補完することができます。」例としては、以下のようなものがあります。

- \* 変更プロセスの自動化
- \* インシデント対応フローの自動化
- \* 設定の一貫性の向上

エンジニアリングを通じてチケットベースの作業負担を軽減する

他の選択肢が間違っている理由：

- \* CABの承認はエラー予算の対象外です
  - \* C チケットの加速はSREの目標ではありません
  - \* DエンジニアリングCMDBはITSM連携のための主要なメカニズムではありません
- したがって、Bが正解である。

参考文献：

SREワークブック 運用近代化とITILへの準拠」

有効な **DevOps-SRE** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい DevOps-SRE 試験問題集！ GoShiken.com が最新の **DevOps-SRE** 試験問題集を提供しています。GoShiken.com DevOps-SRE 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com DevOps-SRE 問題集をゲットする人はこちら：  
<https://www.goshiken.com/Peoplecert/DevOps-SRE-mondaishu.html> (**8230%OFF**問題集溶と正解付きで **30%w** 特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: 17

信頼性は、デジタルエクスペリエンスのモニタリングとインシデント管理における重要な柱です。

SREにおける信頼性監視戦略として最適なものはどれですか？

- A. 高度な人工知能ではなく、従来型の馴染みのある監視ツールを使用する戦略
- B. すべてのコンポーネントとレイヤーにわたって可観測性を確保し、モニタリングに関する洞察を提供する戦略
- C. すべてのアクティブなネットワークのパフォーマンスを監視し、有用なパターンを発見することに焦点を当てた戦略
- D. 高度な技術を活用してアプリケーションの適合性を測定、分析、維持する戦略

**Answer: B (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREでは、効果的なモニタリングとは、レイテンシ、トラフィック、エラー、飽和状態、依存関係、インフラストラクチャなど、システムのすべてのレイヤーにわたる包括的な可観測性であると定義しています。SRE Bookには、モニタリングは、すべてのシステムコンポー

ネットに関する洞察を提供し、チームが問題を迅速に検出および診断できるようにする必要があります」と記載されています。(SRE Book)

- 分散システムの監視)。可観測性計測 (ログ、メトリクス、トレース)は、信頼性の高いデジタルエクスペリエンス監視に必要な深みを提供します。

オプションBはまさにこの点を捉えています。つまり、すべてのコンポーネントとレイヤーにわたる広範な可視性を実現するということです。

オプションAは、現代の可観測性に関する実践を拒否しており、SREのガイドラインに反している。

オプションCは範囲が狭すぎる (ネットワークのみ)。

オプションDは、包括的な網羅性ではなく、先端技術のみに焦点を当てています。

したがって、Bが最適な答えです。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング、章：分散システムの監視」。サイト信頼性ワークブック、可観測性と監視の章。

#### 最新問題: 18

サービスレベル指標 (SLI) を最も適切に定義しているのは次のうちどれですか？

- A. サービス水準が達成されなかった場合の結果を主観的に評価したもの
- B. 求められるサービス水準のパフォーマンス面に関する主観的評価
- C. 提供されるサービスレベルの各側面に関する定量的な目標値
- D. 提供されるサービスレベルの何らかの側面を定量的に測定したもの

**Answer: D (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

Googleの定義は明確です。SLIとは、提供されるサービスレベルの何らかの側面を定量的に測定するための、綿密に定義された指標である。」(SREブック - サービスレベル目標の章)。例としては、エラー率、レイテンシ、スループット、可用性などが挙げられます。SLIは測定値であり、目標値ではありません。目標値はSLOです。

選択肢Dは、Googleの定義をほぼそのまま繰り返している。

選択肢Cは、SLIではなくSLO (目標値を誤って説明しています)。

選択肢AとBは主観的な評価について言及しているが、SREは測定における主観性を明確に否定し、SLIは客観的かつ測定可能でなければならない」と述べている。したがって、Dが正解であり、SREの理念に沿った答えである。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング、章：サービスレベル目標」

サイト信頼性ワークブック、第1章：SLOの実装」

#### 最新問題: 19

データ駆動型測定の価値を最も正確に説明できるのは、次のうちどれでしょうか？

- A. データマイニングにより、組織はすべての指標の正当性を判断できます。

- B. データの収集は、より良い意思決定を可能にするために必要な事実を提供します。
- C. データの分析と理解は、事実に基づいた意思決定を確実にするのに役立ちます。
- D. 目標は、実際のデータに基づいてのみ適切に設計できる。

**Answer: C (メッセージを残す)**

最新問題: 20

次のうち、SREの原則ではないものはどれですか？

- A. 運用はソフトウェアの問題です
- B. 現在手作業で行っている作業を自動化する
- C. 苦労は重要な仕事ではありません
- D. 失敗コストを削減する

**Answer: C (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

「雑務は重要な仕事ではない」という記述は、SREの原則ではありません。これは、Googleの公式SREドキュメントに基づく誤りです。Site Reliability Engineering Bookでは、雑務は重要な概念として扱われています。なぜなら、雑務を特定して削減することで、信頼性の向上とよりエンジニアリングに集中できる作業が直接的に可能になるからです。SRE Bookでは、雑務は真剣に受け止め、体系的に削減していくべきであり、決して軽視してはならないと強調しています。

SREブックの「労力の排除」の章より：

「トイルとは、本番サービスを運用する上で必要となる作業の一種で、手作業が多く、反復的で、自動化可能で、戦術的であり、永続的な価値がなく、サービスの成長に比例して直線的に増加する傾向がある。」SREの書籍ではさらに次のように強調している。

「SREチームは、作業負荷を測定し、追跡し、継続的に削減する努力をすべきである。」これは、作業負荷が重要であり、無視すべきではないことを示しています。したがって、「作業負荷は重要ではない」という主張は、この文書の内容と矛盾します。

その他の選択肢は、実際のSREの原則です。

\* 運用はソフトウェアの問題です - SRE ブックの序文より：SRE のアプローチは、運用は根本的にソフトウェア エンジニアリングの問題であるという信念から始まります。」運用はソフトウェアの問題です - SRE ブックの序文より：SRE のアプローチは、運用は根本的にソフトウェア エンジニアリングの問題であるという信念から始まります。」

\* 現在手作業で行っていることを自動化する - 自動化は、手間を軽減するためのSREの中核的な理念です。

\* 失敗コストを削減する - エラーバジェットと制御されたリスクテイクは、失敗コストを削減するために設計されたSREの中核概念です。

したがって、SREの原則ではない唯一の選択肢はCです。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング書籍、「はじめに」および「手間の削減」の章、SREワークブック、「手間の削減」セクション

**最新問題: 21**

以下のうち、キャパシティプランニングを最も適切に説明しているのはどれですか？

- A. 一定期間にわたって使用されているリソースの容量の割合を監視する
- B. プロバイダーのリソースを管理し、複数のサービスを提供するために実施される活動
- C. サービス需要を満たすために資源を管理する計画を作成するために使用される活動
- D. あらゆる資源が収容または供給できる最大量を決定する

**Answer: C (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREでは、キャパシティプランニングを、システムが現在および将来の需要を満たすのに十分なリソースを確保する規律と定義しています。SREブックには、「キャパシティプランニングは、成長、傾向、予測される使用量を考慮し、サービスが信頼性とパフォーマンスの目標を達成するために十分なリソースを利用できることを保証する」と記載されています（SREブック - キャパシティプランニングの章）。これには、ワークロードの予測、傾向の分析、サービスレベル目標を継続的に達成できるようにインフラストラクチャを拡張するための計画の作成が含まれます。

選択肢Cは、需要を満たすための資源管理計画を作成することとして、キャパシティプランニングを正しく説明しています。

オプションAは、容量計画ではなく、容量監視に関するものです。

オプションBは、SREのキャパシティプランニングではなく、一般的なリソース管理またはクラウドプロバイダーの運用を反映しています。

選択肢Dは最大容量の決定に関するもので、これは測定活動であり、完全な計画ではありません。

したがって、CがSREに準拠した正しい解答である。

参考文献：

サイト信頼性工学、章：「キャパシティプランニング」

サイト信頼性ワークブック、予測と成長計画の例。

**最新問題: 22**

カイゼンとは、小さな改善を積み重ねることで継続的に改善していくことを意味する日本語です。

以下のうち、カイゼン思考を最もよく表しているのはどれですか？

- A. 実験を通して最善の問題解決策を見出すことで、改善に情熱を注ぐ
- B. 問題を探し出し、その根本原因を見つけ出し、そこから得られた教訓を記録したいという願望
- C. 問題を認識し、優先順位を付け、解決策を見つけ、学んだ教訓を共有する意欲
- D. パフォーマンス向上のために問題解決技術を学び、応用することへの熱意

**Answer: B ([メッセージを残す](#))**

**最新問題: 23**

インターネットを含む他のネットワークとの間でデータがやり取りされる防御深度 (DiD) レイヤーを特定します。

- A. 物理層
- B. 外周層
- C. データ層
- D. ホスト層

**Answer: ([解答を表示する](#))**

**最新問題: 24**

エラーバジェットによって最大変化速度が許容されるようになったことを最もよく説明しているのは、次のうちどれですか？

- A. 予算がなくなると、開発者は運用作業よりも新機能の開発にのみ集中します。
- B. 開発者は予算が多いときは開発作業を急いで行い、予算が少ないときは開発を控える。
- C. 開発者は、予算の使用率に応じて機能変更のペースを落とす必要があります。
- D. 開発者は、エラー予算が高いまま、機能変更のリリースに集中できます。

**Answer: D ([メッセージを残す](#))**

**最新問題: 25**

以下の選択肢のうち、コンテナベースの構造の利点を最もよく表しているのはどれですか？

- A. コンテナの軽量性により、実際にソフトウェアコードを作成する開発者の数を減らすことができます。
- B. コンテナによって実現される移植性により、ソフトウェアはホストオペレーティングシステムから独立して実行できます。
- C. 仮想マシン上で実行できるため、コンテナ内ではソフトウェアがはるかに効率的に動作します。
- D. コンテナ内のアプリケーションのセキュリティは、ホストシステムのセキュリティを共有するため簡素化されます。

**Answer: ([解答を表示する](#))**

**最新問題: 26**

大規模な停電が発生した後、停電の分析が行われます。これは、次のうちどれに最もよく当てはまる例でしょうか？

- A. フォローアップ文化
- B. 重大事件文化
- C. 死後培養
- D. 問題のある文化

**Answer: C (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

GoogleのSREアプローチでは、非難を伴わない事後分析文化を中核的な学習メカニズムとして重視しています。大規模な障害発生後、SREチームは構造化された分析を実施し、根本原因、寄与要因、およびシステム上の弱点を理解します。SRE Bookでは、この文化を明確に定義しています。事後分析とは、インシデント発生後に作成された文書による分析であり、何が起こったのか、なぜ起こったのか、そして問題の再発を防ぐにはどうすればよいのかを把握することを目的としています。」(SRE Book - 章：事後分析文化)。この学習重視のアプローチは、非難を減らし、回復力を高め、将来の信頼性を向上させます。

選択肢Cは、この原則に完全に合致している。

オプションA (ウォローアップ文化)は曖昧であり、SREの用語ではありません。

オプションB (重大インシデント文化)とは、事後的な学習ではなく、インシデントへの対応を指します。

選択肢D (問題のある文化)は、SREの構造化されたインシデント後の学習とは無関係です。したがって、Cが正解である。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング、章：事後検証文化：失敗から学ぶ」。サイト信頼性ワークブック、インシデントレビュープロセス。

**最新問題: 27**

なぜ一部のサービスレベル指標はクライアント側のデータを必要とするのでしょうか？

- A. サーバー側には反映されない、ユーザーに影響を与える指標が存在する可能性があります。
- B. 顧客データがなければ、顧客とのサービスレベル契約の交渉は困難だろう。
- C. クライアント側のデータがなければ、外部自動化を設計するのは難しいでしょう。
- D. クライアント側のデータがない場合、サービスレベル目標は達成できない可能性があります。

**Answer: A (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SLI (サービスレベル指標)はユーザーエクスペリエンスを測定する必要があり、サーバー側の指標だけでは全体像を把握できない場合がある。

クライアント側のデータからは、次のような問題が明らかになる可能性がある。

- \* ネットワーク速度が遅い
- \* ブラウザのレンダリング遅延
- \* モバイル端末の制限事項
- \* CDNのパフォーマンス問題
- \* ラストマイル遅延

サイト信頼性エンジニアリングの書籍の「サービスレベル指標」の章には、次のように記載されています。

サーバー側のメトリクスだけでは、ユーザーエクスペリエンスを完全に把握できない場合があります。多くの場合、ユーザーに実際に提供される信頼性を理解するには、クライアント側の測定が必要です。」SREワークブックでは、以下の点を強調しています。

「一部のSLIでは、ユーザーが認識できるパフォーマンスの問題がバックエンドシステムだけでは観測できない場合があるため、クライアント側の計測が必要となります。」他の選択肢が間違っている理由：

- \* B SLA交渉はSLIの選択とは一切関係ありません。
- \* C 言語による自動化エンジニアリングは、クライアント側の測定ニーズとは無関係です。
- \* D SLOの達成可能性は、クライアント側のデータが必要かどうかを決定するものではなく、ユーザーエクスペリエンス測定の精度が決定する。

したがって、正解はAです。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング書籍、[「サービスレベル指標」](#)

SREワークブック [適切なSLIの選択](#)」

#### 最新問題: 28

次のうち、エラー発生時のゴールデンシグナルを最も適切に定義しているのはどれですか？

- A. システムが現在のリクエストに使用している容量の割合
- B. 明示的、暗黙的、またはポリシーによるリクエスト失敗率
- C. 私があなたのシステムにかかる要求量
- D. 成功したリクエストと失敗したリクエストの両方を処理するのにかかる時間

Answer: B ([メッセージを残す](#))

#### 最新問題: 29

サービスレベルに適用した場合、限界生産性逓減の原理は3つの段階で表すことができます。次のうち、これらの段階の1つではないものはどれですか？

- A. 収穫逓減の法則
- B. マイナスリターン
- C. 収穫逓増
- D. 考えられるリターン

Answer: ([解答を表示する](#))

#### 最新問題: 30

既知の回避策は、どのような種類の労力を要するものか？

- A. 線形スケーリング
- B. タクティカル
- C. 自動化可能
- D. 永続的な価値はない

**Answer: ([解答を表示する](#))**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

既知の回避策は、永続的な価値を持たない労力を表しており、これはSREフレームワークで定義されている労力の重要な特徴の1つである。

サイト信頼性エンジニアリングの書籍、第「手間の削減」の章より：

「労働とは、手作業で反復的であり、自動化可能で、戦術的であり、永続的な価値がなく、サービス規模に比例して増加する作業である。」既知の回避策がこの定義に当てはまる理由は以下のとおりである。

- \* 彼らは同じ繰り返し発生する問題を繰り返し解決する
- \* それらは根本的な問題を恒久的に解決するものではありません
- \* エンジニアの時間を浪費するだけで、長期的な改善には貢献しない。これらの活動には永続的な価値がなく、自動化またはエンジニアリングによる修正によって排除すべきである。

他の選択肢が間違っている理由：

- \* A. 線形スケーリング - 多くの形態の労働は線形的に増加しますが、これは回避策を具体的に説明するものではありません。
- \* B. 戦術的 - 戦術的とは短期的なことを意味するが、すべての戦術的作業が回避策であるとは限らない。
- \* C. 自動化可能 - 一部の回避策は自動化できますが、すべてが自動化できるわけではありません。
- \* D. 永続的な価値がない - これは、回避型の労力の決定的な特徴です。

したがって、選択肢Dが正解です。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリングに関する書籍「手間を省く」

SREワークブック「作業負担軽減戦略」

**最新問題: 31**

Puppet Labsの以下の機能のうち、クラウドノードの位置特定、識別、およびグループ化機能として説明されているのはどれですか？

- A. 発見
- B. プロビジョニング
- C. インサイト
- D. 配送

**Answer: ([解答を表示する](#))**

有効な **DevOps-SRE** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい DevOps-SRE 試験問題集！ GoShiken.com が最新の **DevOps-SRE** 試験問題集を提供しています。GoShiken.com DevOps-SRE 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の

GoShiken.com DevOps-SRE 問題集をゲットする人はこちら:

<https://www.goshiken.com/Peoplecert/DevOps-SRE-mondaishu.html> (8230%OFF問題集溶と正解付きで 30%w 特別割引コード: **Freepdfdumps**)

#### 最新問題: 32

SREの目標は何ですか？

- A. SREの時間の50%を運用タスクに、残りの50%を開発タスクに費やすことで、作業負担を軽減する。
- B. 監視と可観測性を通じて、サービスレベル目標が常に達成されるようにする
- C. DevOpsとアジャイルに沿った、信頼性の高い導入後運用システムを構築する。
- D. 超スケーラブルで高信頼性の分散ソフトウェアシステムを構築する

**Answer:** ([解答を表示する](#))

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

サイト信頼性エンジニアリング (SRE)の目標は、超スケーラブルで信頼性の高い分散ソフトウェアシステムを構築することです。この原則は、SREの基礎となる書籍であるGoogleの『Site Reliability Engineering』の中で明確に述べられています。

『サイト信頼性エンジニアリング』第1章 概要」より：

SREとは、ソフトウェアエンジニアに運用チームの設計を依頼した結果として生まれるものです。当社のサービス管理へのアプローチは、拡張性と高い信頼性を備えたシステムを構築するためのエンジニアリング作業が、現代のソフトウェアの成功に不可欠であるという信念に基づいています。」

- サイト信頼性エンジニアリングブック、第1章

この声明は、拡張性と信頼性に優れたシステムを構築・維持することがSREの中核的な使命であることを明確にするものです。

手間の削減 (オプションA)、SLOの実装 (オプションB)、DevOpsとの連携 (オプションC)といった概念はSREの実践において重要な要素ですが、それらはオプションDである包括的な目標をサポートするものです。

したがって、正解はD：超スケーラブルで信頼性の高い分散ソフトウェアシステムを構築することです。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリングブック - 第1章 :はじめに <https://sre.google/books/> サイト信頼性ワークブック - Google SRE Google Cloud ブログ :SREの概要

#### 最新問題: 33

次のうち、エラー発生時のゴールデンシグナルを最も適切に定義しているのはどれですか？

- A. 成功したリクエストと失敗したリクエストの両方を処理するのにかかる時間
- B. 明示的、暗黙的、またはポリシーによるリクエストの失敗率
- C. リクエスト量によってシステムにかかる負荷

D. 現在のリクエストにシステムが使用している容量の割合

**Answer:** [\(解答を表示する\)](#)

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREブックでは、監視における4つの重要な指標として、レイテンシ、トラフィック、エラー、飽和度を定義しています。

具体的には、「エラー」は「明示的、暗黙的、またはポリシーによって失敗したリクエストの割合」と定義されています（SREブック - 章：分散システムの監視）。これには、HTTP 5xx応答、タイムアウト、および処理されたものの成功基準を満たさなかったリクエストが含まれます。

この定義は選択肢Bと完全に一致する。

オプションAはエラーではなく、遅延について説明しています。

選択肢Cは交通状況について説明しています。

選択肢Dは飽和状態（リソース使用量）について説明しています。

したがって、Bはエラーのゴールデンシグナルを正しく、かつSRE（ソフトウェア信頼性評価）の観点から正確に記述したものである。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング :Google が本番システムをどのように運用しているか、章：分散システムの監視」。サイト信頼性ワークブック、テレメトリとアラートに関するセクション。

**最新問題: 34**

エラーバジェットがどのようにして最大の変化速度を可能にするのかを最もよく説明しているのは、次のうちどれですか？

- A. エラーバジェットが高いうちに、開発者は機能変更のリリースに集中できます。
- B. 開発者は、予算の使用率に応じて機能変更のペースを落とす必要があります。
- C. 予算が空っぽの場合、開発者は運用作業よりも新機能の開発にのみ集中します。
- D. 開発者は予算が多いと開発作業を急いで行い、予算が少ないと開発を遅らせます。

**Answer: A** ([メッセージを残す](#))

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

エラーバジェットは、信頼性と革新性のバランスを取るためのSREの基本的なメカニズムです。SREの書籍には、「エラーバジェットは変更の速度を直接的に制御します。サービスがバジェット内に収まっている限り、開発速度は高く維持できます。」（SRE書籍 - サービスレベル目標の章）と記載されています。これは、許容される非信頼性の量が消費されていない限り、チームは積極的に変更を推進できることを意味します。

エラーバジェットは安全閾値として機能します。信頼性が低下し、エラーバジェットが消費されると、SREは安定性を回復するために変更凍結を実施します。Googleは次のように説明しています。「エラーバジェットが消費されると、リリースは停止され、信頼性の向上に注力されます。」機能開発速度は恣意的に遅くなるのではなく、残りのエラーバジェットのみによって制御されます。

オプションAがこれを最もよく表しています。エラーバジェットが高い場合、チームは安全に機能提供を加速できます。

選択肢Dは、急ぐことを示唆しており、これは制御放出の原則に反する。

オプションBは、エラーバジェットをパーセンテージベースのスロットリングシステムとして誤って解釈している。

選択肢Cは、イノベーションが完全に停止するのは空になった時だけだと誤って示唆している。

したがって、公式のSRE原則に従えば、Aが正しい解釈である。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング :Google が本番システムをどのように運用しているか、章：「サービスレベル目標」。サイト信頼性ワークブック、エラーバジェットとリリースガバナンスの実装に関するセクション。

### 最新問題: 35

停電が繰り返し発生し、内容も似ている場合、それは一種の苦役となる。

高度な技術と人工知能 (AI) を採用する最も説得力のある理由として、次のうちどれが挙げられますか？

A. MTTRとMTRSを短縮することで信頼性を向上させる

B. サービスの平均修復時間 (MTTR) を向上させる

C. サービス復旧までの平均時間 (MTRS) を延長する

D. 信頼性を向上させ、完璧なMTRSを実現する

**Answer: A ([メッセージを残す](#))**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SREでは、トイルを「サービス運用に関連する、手作業で反復的、自動化可能な戦術的作業」と定義しています (SREブック - トイルの排除)。反復的な障害は、運用上のトイルの一形態として特に挙げられています。SREブックとSREワークブックでは、トイルを削減し、平均修復時間 (MTTR) と平均サービス復旧時間 (MTRS) を短縮するために、自動化、インテリジェントツール、機械学習支援システムの導入を強調しています。これらの書籍には、「MTTRを短縮することは、すべての障害を排除しようとするよりも、システムの信頼性を直接的に効果的に向上させる」と記載されています (SREブック - インシデント管理の章)。AIと高度な自動化により、問題の検出が迅速化され、パターンが分類され、自動修復が開始され、人的介入が削減されるため、完璧な稼働時間ではなく、より迅速な修復を通じて信頼性の向上を実現します。

オプションAは、SREの信頼性に関する理念に合致する唯一のオプションです。

選択肢BとCは、MTTR/MTRSを増やすことを誤って推奨している。

選択肢Dは「完璧なMTRS」を指していますが、これは不可能であり、SREが失敗を容認するという原則と矛盾します。

したがって、Aが正解である。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング、章：「手間の排除」、インシデントの管理」。サイト信頼性ワークブック、機械学習／自動化のケーススタディ。

**最新問題: 36**

安全文化においては、エンジニアは報復を恐れることなく、生産環境においてより多くのことを行うことができる。

エンジニアは他に何をする必要がありますのでしょうか？

- A. 制作中の出来事をSNSで共有する
- B. 自分の行動に責任を持つ
- C. 責任を問わない事後検証は全て省略する
- D. オンコール対応は避ける

**Answer: B ([メッセージを残す](#))**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

安全文化において、SREは心理的安全性を重視し、エンジニアが非難されることを恐れることなく、本番環境で効果的に作業できるようにします。しかし、安全性が責任を免除するわけではありません。エンジニアは、特にインシデント発生時において、自身の行動、決定、および前提に対して責任を負わなければなりません。

サイト信頼性エンジニアリングの書籍の「事後検証文化」の章には、次のように記されている。

「非難されないことは、責任を免除するものではありません。組織がそこから学ぶことができるよう、個人は依然として、自身の決定の背景にある状況、前提、および理由を説明しなければなりません。」Googleは次のように強調しています。

エンジニアは、安心して行動し、問題を報告できると感じられる必要がある。

エンジニアは責任感と説明責任を常に持ち続けなければならない。

\* 責任追及は罰ではなく、学びを促すものである。

他の選択肢が間違っている理由：

\* ソーシャルメディア上で事件を共有することは機密保持義務に違反する

\* C 責任を問わない事後検証は必須であり、省略してはならない。

\* D オンコールを避けることはSREの責任に反する

したがって、Bが正解である。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリングに関する書籍「事後検証文化」

SREワークブック「インシデントから学ぶ」

**最新問題: 37**

以下のうち、Kubernetesを最も正確に説明しているのはどれですか？

- A. アプリケーションコンテナの統合、構築、テスト、およびデプロイを自動化するために開発された独自のシステム

- B. 組織が継続的インテグレーションと継続的デリバリーの実践を実現できるようにする独立したプラットフォーム
- C. クラウド環境でコンテナを管理するために使用されるプラットフォームで、自動スケーリングとフェイルオーバー機能も備えています。
- D. コンテナ化されたアプリケーションを効率的に実行、監視、管理できるオープンソースのオペレーティングシステム

**Answer: C (メッセージを残す)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

SRE関連の文献では、Kubernetesはコンテナ化されたアプリケーションのデプロイ、スケーリング、フェイルオーバー、ライフサイクル管理を自動化するオープンソースのコンテナオーケストレーションプラットフォームとして説明されています。Site Reliability Workbookでは、Kubernetesを「サービスディスカバリ、スケーリング、ロールアウト管理、自己修復を自動的に処理するコンテナ管理システム」と紹介しています（SRE Workbook - 本番環境の章）。KubernetesはOSを置き換えるものでも、CI/CDプラットフォームでもありません。OSの上に構築され、クラスター間でコンテナをオーケストレーションします。オプションCが最も正確です。コンテナ管理、クラウド展開のコンテキスト、自動スケーリング、およびKubernetesのフェイルオーバー機能の的確に捉えています。

選択肢AとBは、CI/CDプラットフォームの説明が不正確です。

選択肢Dは、Kubernetesを「オペレーティングシステム」と誤って表記している。

したがって、Cが正解である。

参考文献：

サイト信頼性ワークブック、Kubernetesの使用例。

Kubernetesドキュメント「オーケストレーション、オートスケーリング、自己修復」。

#### 最新問題: 38

顧客信頼性エンジニア（CRE）を最も適切に説明しているのは、次のうちどれですか？

- A. 彼らはクラウドプロバイダーのSREチームと協力して新機能のリリースと構築を行います
- B. 彼らはソフトウェアエンジニアリングのアプローチでオールクラウドサービスを再設計します
- C. 高度なエンジニアリングの専門知識を活用して、クラウドプロバイダーのサービスを改善します。
- D. 顧客の運用チームと連携し、責任を分担します。

**Answer: C (メッセージを残す)**

#### 最新問題: 39

サービスレベル目標とサービスレベル指標の関係を最も適切に説明しているのは、次のうちどれですか？

- A. サービスレベル指標は、サービスレベル目標のパフォーマンス目標です。

- B. サービスレベル目標は、サービスレベル指標の測定値です。
- C. サービスレベル指標は、サービスレベル目標の測定値です。
- D. サービスレベル目標は、サービスレベル指標のパフォーマンス指標です。

**Answer: C** ([メッセージを残す](#))

#### 最新問題: 40

組織が変更を自動的に推進し、依存関係のエラーを減らしたい場合、どのような手順を踏むべきでしょうか？

- A. システムコンポーネントのデプロイに使用される成果物がテスト済みであり、外部から確認可能であることを確認する。
- B. システムコンポーネントのデプロイには、検証済みで署名済みの成果物のみを使用するようにしてください。
- C. エラーバジェットが監督機関およびポリシーと合意されていることを確認する
- D. 成果物の署名と検証方法を定義するサービスレベル目標を設定する

**Answer: (**[解答を表示する](#)**)**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

検証済みで署名済みの成果物を使用することは、安全な自動化に不可欠であり、デプロイメントの一貫性を確保し、依存関係やサプライチェーンのエラーを排除します。これは、GoogleのリリースエンジニアリングおよびSREプラクティスにおける基本原則です。サイト信頼性エンジニアリングブックの「リリースエンジニアリング」の章には、次のように記載されています。

「リリースは一度ビルドし、テストし、署名して、安全なリポジトリに保存する必要があります。構成のずれや依存関係の不整合を防ぐため、署名と検証済みの成果物のみを本番環境に展開する必要があります。」SREワークブックもこれに同意しています。

自動昇格は、成果物の完全性と不変性に依存します。署名付き成果物は一貫性を保証し、依存関係の不一致に関連するエラーを防ぎます。」他の選択肢が間違っている理由：

外部からの可視性は無関係であり、セキュリティリスクを生み出す可能性があります。

\* C エラーバジェットは信頼性に関係するものであり、アーティファクトのプロモーションとは関係ありません。

\* D SLOでは成果物の署名は定義されません。これはリリースエンジニアリングプロセスによって処理されます。

したがって、正解はBです。

参考文献：

サイト信頼性エンジニアリング書籍「リリースエンジニアリング」  
SREワークブック 自動化と安全なリリース」

#### 最新問題: 41

SRE内で行われる作業に対するエンジニアリングのアプローチを最もよく表しているのは、次のうちどれですか？

- A. SRE は、一連のベストプラクティスと原則に従って、日常的なチューニング活動を自動化するソリューションを迅速にコーディングします。
- B. SREは、最初から綿密に分析されたエンドツーエンドのパイプラインを使用してソリューションをデプロイします。
- C. SREは、適切に設計・実装されたプロセスとナレッジベースを使用して、インシデントをできるだけ迅速に解決します。
- D. SREは、他の成功したソリューションから学び、面倒な作業をなくし、サービス提供を拡大するためのソリューションを設計します。

**Answer: A ([メッセージを残す](#))**

#### 最新問題: 42

DevOpsの継続的モニタリングの機能と範囲を最も適切に説明しているのは、次のうちどれですか？

- A. インフラストラクチャ向けの統合監視ツールとイベントしきい値の展開
- B. エンドユーザーのトランザクションを自動化することで、広範なシステムイベント監視を適用する。
- C. クラウドサービスの迅速なインシデント検出と対応のためのツールとプロセスの組み合わせ
- D. すべてのアプリケーションに対して複数の監視ツールとイベント管理プロセスを使用する

**Answer: ([解答を表示する](#))**

#### 最新問題: 43

エラーバジェットポリシーは、次のうちどれを目的として設計されていると最も適切に説明できますか？

- A. イノベーションの方向へ重点を移す
- B. 介入のタイミングと方法を決定する
- C. エラー予算が半分になったらアラートを送信する
- D. 重大なバグの侵入を防ぐ

**Answer: B ([メッセージを残す](#))**

#### 最新問題: 44

ソフトウェア定義ネットワーク (SDN)を体系化し、SDLCの原則を適用してネットワークの変更を構築、テスト、展開するのは誰ですか？

- A. サイト信頼性エンジニア (SRE)
- B. ネットワーク信頼性エンジニア (NRE)
- C. 顧客信頼性エンジニア
- D. データベース信頼性エンジニア

**Answer: B ([メッセージを残す](#))**

正確な抜粋に基づく包括的かつ詳細な説明：

ネットワーク信頼性エンジニア (NRE)は、SRE (サイト信頼性エンジニアリング)の手法をネットワークに適用することに特化した、信頼性に関する専門的な役割です。ソフトウェアエンジニアリング、SDLC (ソフトウェア開発ライフサイクル)の概念、および自動化を活用して、SDN (ソフトウェア定義ネットワーク)を含む大規模なネットワークを管理します。

GoogleはNREを次のように説明しています。

「ネットワーク信頼性エンジニアリングは、SREの原則をネットワーク管理に適用し、ネットワーク構成をコードとして扱い、変更を安全に自動化する。」

- Googleの信頼性エンジニアリングに関するガイダンス

職務内容：

- \* SDN構成のコード化
- \* ネットワーク展開の自動化
- \* CI/CD を通じてネットワーク変更をテストする
- \* ネットワーク関連の障害を削減する

したがって、正解はBです。

参考文献：

Google Cloud：「ネットワーク信頼性エンジニアリング」

ネットワーク自動化に適用されるSREの原則

**Valid DevOps-SRE Dumps** shared by GoShiken.com for Helping Passing DevOps-SRE Exam! GoShiken.com now offer the **newest DevOps-SRE exam dumps**, the GoShiken.com DevOps-SRE exam **questions have been updated** and **answers have been corrected** get the **newest** GoShiken.com DevOps-SRE dumps with Test Engine here: <https://www.goshiken.com/Peoplecert/DevOps-SRE-mondaishu.html> (82 Q&As Dumps, **30%OFF Special Discount: Freepdfdumps**)